

民間工事ニュース

紫心会 柴田病院(鹿児島市)建替え

前田・新生JVで施工

設計は創建築計画研究所

医療法人紫心会 柴田病院(鹿児島市)は、鹿児島市中町の同病院の建て替えを計画、指名業者から、指名業者からの見積り徴収の結果、病院側の配慮などから見積り金額などを考慮し、このほど前田組・新生組JVでの施工を決めた。1期工事を2月から着手し、15年11月に完了、2期工事を16年早々にも着手する模様だ。

同病院は、鹿児島市中町12-8、9、11他4筆に建設されている同病院の老朽化などから建て替えるもの。工事は1期工事と2期工事に分け整備を行う。新しい建物は、

病院及び自動車庫(機械式駐車場)などを含め、RC造6階建て33,302.5平方メートルを予定している。診療科目は内科、循環器科。

今回の業者決定は、落札業者のほか、植村組、渡辺組、野村建設工業、戸田建設、鴻池組、松尾建設から見積りなどを徴集し技術提案書等及び価



現在の柴田病院

永光会 栗野病院(栗野町)増築

鴻池組で工事着手へ

設計は村田相互設計

医療法人永光会・栗野病院(永田三郎院長)は、始良郡栗野町の老人性痴呆疾患治療棟の増築を計画、このほど施工業者を鴻池組に決めた。起工式は2月早々に行い、夏前に建設したRC造平屋

同病院は、北方1854の敷地内に本館のほか、各病棟があり、うち数年前に建設したRC造平屋

CM方式を採用

県内屈指の税理士事務所らしい風格を持ち、周辺の環境に調和した建物が完成した。

同建物は、昨年3人の税理士が税理士法人「甲南総合会計事務所」を設立。これに伴い、



タクスビル

新事務所建設を計画、肥後郡一平氏の総合プロデュースのもとCM(コンストラクション・マネジメント)方式を採用し、14年12月に完成した。



LAN完備のインテリジェントビル

外壁にガルバリウム鋼板やアルミパネルをふんだんに使用し、シャープなイメージを表現、かつ耐久性に優れたものとなっている。

内部は、最新設備のシステムフロアで無線LANなどを完備したインテリジェントビルとなっている。2、3階を事務所とし、4階は会議室、応接室、ロッカールーム、シャワー等を設置しており、多用途・多目的な機能を持つ。

- ▽工事名：タクスビル新築
- ▽場所：鹿児島市上之園町32-4
- ▽設計・施工監理：(株)肥後久雄建築設計事務所
- ▽建物規模：S造4階建て532.40平方メートル

マイコープタウン出水(出水市)新築

着工に向けて準備

コープかごしま

鹿児島市のコープかごしま(坂元義範理事長)は、出水市知識町に県内初の店舗となる「マイコープタウン出水」の店舗新築を計画。スーパーマーケットのほか、ドラッグストアと100円ショップを併設した建物を計画しており、規模は全体でS造平屋建て4146平方メートルとなる。

現在、出水地区には同組合の店舗がなく、近隣市町の組合員からも店舗設置要求が多かったことから、利便性の向上と広範囲の組合員が来店できるように単独の出店ではなく、(株)ミドリ薬品のドラッグストアと(株)コープサービスの生活雑貨などの店舗と共同して出店することとなった。

建設地は出水市知識町850外11筆。市道3路線に挟まれた旧耕作地1万2913平方メートルの敷地に、建物規模S造平屋建て4146平方メートル(店舗面積3155平方メートル)の新築。各棟ごとの延べ面積はスーパーマーケット2416平方メートル、ドラッグストア646平方メートル(同618平方メートル)、100円ショップ1084平方メートル(同1017平方メートル)となる。

また、敷地内に自走式の平面駐車場175台、駐輪場86台を確保するほか、荷さばきスペース(263平方メートル)、写真現像などのDPE(84平方メートル)、クリーニング(24平方メートル)、宝くじ(20平方メートル)、廃棄物等の保管施設(29平方メートル)なども設置する。

既に農地転用許可及び開発行為許可は完了し、現在、県に大規模小売店舗立地法に基づく届け出を行っており、審議会を経て県知事より答申がおり次第、着工に向けた準備に取りかかる模様。

建物の老人性痴呆疾患治療棟の2階部に今回増築するもの。増築面積は約1784平方メートル。

このほど、施工を鴻池組に決め、2月早々に起工式を行い、7月頃の完成を予定している。

なお、設計は地上14階建て地下2階建ての医療・福祉施設、済生会福岡総合病院など、モダンな建物を設計する(株)村田相互設計が担当した。

井料サービスセンター(井料)オープン

M-Woodを多用



国分市広瀬に通所介護施設「井料サービスセンター」がこのほどオープンした。外観はプラウンを基調にした住まいの感じを出し、インテリアは木と和紙風の壁装となっている。

同施設は、ミサワホーム九州県が施工を担当し、

施設色を極力減らすために同社の特長である木質新素材「M-Wood」を多く使用している。また、県内で初めての炭酸泉を使用した温泉を設置し、血管を広げ血行を良くする効果があり、糖尿病や肩こりなどに効果がある。

再生処理加工施設(青)建設

近く工事に着手

鹿児島ベクトルサイクル(本木秀一社長、本社・鹿児島市)は、曾於郡末吉町と立地協定を20日に締結して、県内初となるベクトルサイクルリサイクルして食品容器の原料となるフレック(再生原料)を生産する再生処理加工施設を建設し、5月の操業を目指す。

建物規模は、W造平屋建て422.95平方メートル。施設内は、玄関から両サイドに事務所、静養室、厨房などのスタッフゾーン、南側の明るい部分にデイルームや和室コーナーなどの利用者ゾーン、そこに隣接して脱衣室や大浴室のくろぎゾーンを設置している。

なお、設計はRAAR(熊本市)が担当した。

同社によると、県内のベクトルサイクルのほとんどが県外で再生処理されており、今回の工場建設によって県内でのリサイクルが可能となるほか、将来的には生産の際に生じるパウダー状の廃棄物を建設用型枠などに再生してリサイクルを図りたいとしている。

現在、仮設電柱やNTTの電話線などの設置を行っており、近く工事に着手し、4月には試験運用を行い、5月からの操業を目指している。

生産計画は、初年度に日量5トン、年間1500トンの再生原料の生産を見込み、約1億円の売上高を予定しているほか、次年度以降は24時間体制で年間4500トンを生産し、約3億円の売上高を目指す。また、5月操業時に12人程度の新規雇用を予定し、将来的には36人程度を雇用したい考えである。

同社は、1億2000万円の用地を取得し、約3000坪の工場を建設。また、ベクトルサイクルを粉砕し、比重分離及び洗浄、乾燥回収してフレック(再生原料)を生産する機械設備を6100万円を投入して整備するほか、トラックやフォークリフトなどの輸送用機器なども配置する予定である。

同社は、初年度(第1期)として1億2000万円を盛り込み、同町開発公社から約3000坪の用地を取得し、約3000坪の工場を建設。また、ベクトルサイクルを粉砕し、比重分離及び洗浄、乾燥回収してフレック(再生原料)を生産する機械設備を6100万円を投入して整備するほか、トラックやフォークリフトなどの輸送用機器なども配置する予定である。